

さつまいも狂句 (有明さつまいも狂句同好会)

兼題 「逃げつ」 稼働つ出た 原発ち周回や 逃ぐい訓練 畑山 敏昭

(評) 原発事故のあと、規制とか再稼働とかいろいろな方向に展開している。そんな中、稼働原発の地域で欠かれないのが避難訓練。実際に計画的な訓練も始まった。時事吟としても真実味を呼ぶ。さて今後の動向は？

兼題 「元談」 冗談ん棒が 向脛を狙ろつ来つ 稲付 通夫

(評) 「はらくれ」とは子のとおり冗談のことである。「わやつ」ともいう。子どもたちの遊びの中で、意図しないで投げた棒が向脛を狙ってきた。誤って危険を伴う遊びは禁物。冗談めいた遊びは事前の指導・配慮を。

兼題 「合格つ」 大と高い 同時き合格つ 多忙こ親 丸目 南兵衛

(評) 大は大学、高は高校。その二つの進学が同時に決まった。実に喜び溢れる出来事だが、一方進学にはそれなりのお金が必要。この句の「多忙」は仕事ではなく、その工面に親の教育情熱が爆発か。祈修学元遂。

兼題 「辛れ」 甘め辛れち 言たなあ鍋も 外ち投げつ 小蓬原 忠則

(評) 今どき亭主関白が通用するかどうか。多分この家の亭主は所謂身勝手な言動の持ち主だろうか。食事の惣菜に一々小言が出る。余りの独善ぶりに怒った奥様が最大限の抵抗に出た。想像しただけで滑稽味満点。

文芸

Japanese Poem of 31 syllables
*Haiku Poem*Comic*Haiku*

短歌 (松山南船短歌会)

手作りの酒なき祝膳早々と年越し蕎麦は友の美味なり
大迫氏明日は三・七日釋誠諦初雪さんさん浄土の華に
何もかも押し流し行く秒針よふりかえり見る夫の入院
冬型にもどる旋風にしかと付く雫のほどの梅の実光る
夜十時ことば少なき待合室つかれし顔に列車待ちおり
まる十日飲まず食わずの愛猫は点滴受診に危機をのがれし
ラジオから流るる短歌を聞きながら年の瀬早めの掃除をはじめ
「お父さん」呼べど応えぬ夫の手を両手で包みて体温たしかむ
そろそろと進む難病に負けまじと暮らす日びをは忍び来る闘
出逢いとほ有難きこと宝物人は財産元氣をもらう
年越しの蕎麦茹で処れば茶の間より「年越しだぞ」と夫の初声

畑 美佐子
前原 恭
野口 順子
石橋 道子
川添八重子
中島 昭
吉元ミチ子
大迫 鈴子
藤田ミチ子
山口 カツ
高倉 律子

俳句 (ぎんなん俳句会)

盲たる妻の野遊び風と在り
滑走路今は菜の花盛りかな
閉校に集ふ同窓送る春
一両の電車を包む春夕焼
牧水の墨蹟まろし春うらら
三月や少しときめく心地して
永き日やコーヒー豆を挽いてをり
桜散る風に包まれ車椅子
地震の夜の恐れを拾ひ青葉木菟

富山 達次
富山 茂子
目黒 文恵
本村 光子
北川 雨水
刀坂由美子
今井 洋子
川上 豊
和田 洋文

『志』・季・折・々

市内の美しい風景や、歴史・文化を感じさせてくれるものを写真で紹介いたします。読者の皆様からの写真のご提供も、お待ちしております。

【今月の1枚：カラー(千田花公園)】